

日本計画行政学会 第40回全国大会 報告

2017年9月9日

学長プロジェクト2は、日本計画行政学会第40回全国大会（青山学院大学）で以下のセッションを開催した。（9月9日（土）13:50-15:50 及び 16:00-17:30）

*セッション CSR, その1 : CSRの理念と環境社会配慮の方法

「CSRと環境社会配慮」

（発表者）原科幸彦，千葉商科大学 学長

（討論者）作本直行，JETRO 環境社会配慮異議申立審査役

（討論者）大高 明，三菱東京UFJ銀行 ストラクチャードファイナンス部

「ESG投資の基本的性格とその理論的・政策的地平」

（発表者）伊藤宏一，千葉商科大学 人間社会学部 教授

（討論者）笹谷秀光，株式会社 伊藤園 常務執行役員・CSR推進部長

*セッション CSR, その2 : 大学の社会的責任, USR

「環境や社会を考慮したUSRとその活動」

（発表者）齊藤紀子，千葉商科大学 人間社会学部 専任講師

杉本卓也， 同 政策情報学部 准教授

橋本隆子¹， 同 商経学部 教授

（討論者）中原秀樹，東京都市大学 名誉教授

「大学におけるエシカル消費教育の一方法」

（発表者）今井重男¹，千葉商科大学 サービス創造学部 教授

太田三郎， 同 商経学部 教授

滝澤淳浩， 同 サービス創造学部 准教授

（討論者）金丸治子，イオン株式会社 グループ環境・社会貢献部長

議論の様子を簡単に報告する。

¹ 登壇者

*セッション CSR, その1 : CSR の理念と環境社会配慮の方法

原科学長から

- ・ 環境社会配慮 (ESC : Environmental Social Consideration) に関する世界動向
- ・ ESC は日本の JBIC, JICA, JETRO でどのように広まったか
- ・ 金融機関における赤道原則 (EQ : Equator Principal) 採択の動き
- ・ 米国, 中国との比較による日本のインパクトアセスメントの状況

等が紹介された.

JETRO の作本氏からは,「1990 年代の ODA は環境・社会への考慮を十分に行ってなかったが, 近年, EQ 採択の動きなどもあり, ODA に CSR の考え方が広く反映されるようになった. ESC は CSR の中核となるべきである」とのコメントを頂戴した. また三菱東京 UFJ 銀行の大高氏からは,「民間金融機関で ESC の考えが実務に根付くまで, 長い時間がかかった (35 年). 人材育成が重要であり, JETRO がやられているようなレベルまでストレッチするべきである」といった民間金融機関ならではのコメントがあった.

伊藤宏一教授からは,

- ・ ESG 投資は手法ではなく, 原則である.
- ・ ESG 投資はまだまだ普及しておらず, 欧米諸国に遅れをとっている
- ・ SDGs (Sustainable Development Goals) やサーキュラーエコノミーに対応している企業を対象とした ESG 投資や, GPIF による ESG 投資の超過収益力
- ・ 日本では始まったばかりであり, 今後の展開が重要

といった報告があった.

伊藤園の笹谷常務からは,「CSR を再考すべきであり, CSR から SR の時代を迎えている. SDGs を活用し, 非財務情報を統合することで, 企業価値を向上していくことが重要である」とのコメントをいただいた.

また, 大阪経済大学客員教授の・川氏から,「ESC といった理論上? の価値を現場の取引に反映させることは難しいのでは?」との質問があり, 伊藤教授から,「実際に ESC を行っている会社に注力した投資で収益を挙げている投信会社もある」との返答があった. さらにインパクトアセスメント数の比較について質問があり, 原科学長は「中国のデータは資料に基づいているが, よく精査する必要がある」と答えた.



会場の様子



原科学長



JETRO 作本氏



三菱東京 UFJ 大高氏



伊藤教授



伊藤園 笹谷常務



セッション1 登壇者

* 関連発表： 新たな共有価値の創造（CSV）へ（伊藤園 笹谷常務）

伊藤園 笹谷常務からは関連発表として、CSR と CSV の関係について説明があった。社会価

値と経済価値を同時に実現することが重要であることを事例を交えて紹介いただいた。

*セッション CSR, その2 : 大学の社会的責任, USR

橋本教授から

- ・大学の社会的責任 (USR) の背景と先行研究
- ・UR (University Ranking) の指標開発に向けた方向性
- ・千葉商科大学における活動の取り組み

の報告がなされた。

東京都市大学の中原名誉教授からは、今後の UR の指標開発の論点として、「国立大学と私立大学の果たすべき役割の違いについて、改めて整理する必要がある。その上で、大学が社会に果たしてきた成果や、大学組織の構造（教員、職員、学生）を踏まえた評価指標を検討する必要がある。」とのコメントを頂戴した。

今井教授から

- ・「エシカル消費」の歴史的背景と概念整理
- ・大学におけるエシカル教育の意義
- ・今後の活動方針

の報告がなされた。

イオン株式会社の金丸氏からは、実際の活動を交えた紹介があった。自主的な行動宣言だけでなく外部認証評価を活用し、積極的に外部にアピールすることにより、消費行動に如何に促していくのかという点について、示唆をいただいた。また、フロアの中原名誉教授や伊藤教授も交えたディスカッションでは、「エシカル消費」と「エシカル投資」、さらには金融教育にも議論が及ぶなど、セッションを横断する議論も展開された。

以上、2つのセッションを通じて、討論者、会場の方々から大変有意義なご意見を頂戴した。今後のプロジェクト推進にあたり貴重な機会となった。これからもこういった機会を通じて、プロジェクトを効果的に推進していきたいと考えている。



橋本

中原教授



今井教授

イオン 金丸部長